

August 4, 2020

**【前日の為替概況】ユーロドル、続落 M&A 絡みの期待でユーロ売り・ドル買い**

3日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは続落。終値は1.1762ドルと前営業日NY終値(1.1778ドル)と比べて0.0016ドル程度のユーロ安水準だった。独シーメンスの上場子会社で医療機器大手の独シーメンス・ヘルシニアーズは2日、放射線治療機器大手の米バリアン・メディカル・システムズを164億ドル(約1兆7300億円)で買収すると発表。M&A(合併・買収)絡みのユーロ売り・ドル買いを期待している向きは多く、22時過ぎに一時1.1696ドルの本日安値までユーロ安・ドル高が進んだ。ただ、売り一巡後はじりじりと下値を切り上げて、NY終盤には1.1768ドル付近まで下げ渋った。米長期金利が上昇幅を縮めたことや米国株相場の上昇に伴うリスク・オンのドル売りが出たようだ。

なお、23時発表の7月米ISM製造業景気指数は54.2と予想の53.6を上回ったものの、相場の反応は限られた。

ドル円は小幅ながら続伸。終値は105.95円と前営業日NY終値(105.83円)と比べて12銭程度のドル高水準だった。ダウ平均が270ドル超上昇し、ナスダック総合が史上最高値を更新すると円売り・ドル買いが先行し、一時106.47円と日通し高値を付けた。市場では「すでに資金調達を終えている可能性はあるものの、セブン&アイ・ホールディングスによる米コンビニ買収案件が円売り・ドル買いの材料として意識されやすかった」との声も聞かれた。もっとも、買い一巡後は伸び悩む展開に。米10年債利回りが上昇幅を縮めたことで円買い・ドル売りがじわりと強まり、一時105.91円付近まで下押しした。

ユーロ円は4営業日ぶりに反落。終値は124.64円と前営業日NY終値(124.75円)と比べて11銭程度のユーロ安水準。22時過ぎに一時124.32円付近まで下押ししたものの、23時過ぎには124.81円付近まで下げ渋った。NY午後に入ると124.60円台での狭いレンジ取引に終始した。

**【本日の東京為替見通し】前日レンジ中心値で戻りドル円は動きにくい、豪ドルの値動きに注目**

本日の東京時間のドル円は、106円付近を中心に方向感のない値動きになりそうだ。昨日のNYは前日3日のレンジ(105.58-106.47円)のほぼ中心の水準でクローズしている。この水準で引き継いだアジア勢は手が出しにくい状況だろう。依然として先月のドル売りのトレンドが変わったとは思えないこともあり、上昇局面では本邦勢だけでなく市場を引っ張っている米系も売りを仕込む可能性が高い。しかし、105円後半から下にかけては昨日2回踏み上げられていることを考えると、他の通貨次第でもあるがドル円だけ積極的に売り仕掛けるのも本日は難しそうだ。

ドルの上値を抑える要因としては、日本時間早朝に民主党のペロシ米下院議長が「(コロナ追加支援策について)今週は合意ができないだろう」と発言していることで、失効している失業支援給付金の遅延は今後の米経済にとってネガティブ要素となる。昨日カシユカリ米ミネアポリス連銀総裁、本日早朝にエバンズ米シカゴ連銀総裁と連銀関係者も議会での支援策を望む発言を繰り返しているように、米議会の今後の動きには注目したい。また、米中関係の悪化や、米国を襲っているハリケーンの動きにも要警戒となる。

ドルの下値を支える要因としては、昨日発表されたセブン&アイ・ホールディングスによる米スピードウェイの買収、週末に発表された独シーメンス・ヘルシニアーズによる、放射線治療機器大手の米バリアン・メディカル・システムズの買収など、買収によるドルの資金手当てがドルを支える可能性がある。

ドル円は上記のように動きにくい展開になりそうだが、本日の東京市場では豪ドルの動きが活発になる可能性が高い。東京午前に豪州の経済指標(6月の貿易収支と小売売上高)が発表され、東京時間の13時半ころには豪準備銀行(RBA)が政策金利を発表する。RBAの政策金利は0.25%への据え置き予想が大半を占めている(極一部で0.1%への引き下げもある)が、注目は同時に発表される声明文になる。ビクトリア州での感染拡大が止まらないことで、ロックダウンや夜間外出禁止令が再び開始されることになった。メルボルンでは明日から6週間にわたり多くの企業が営業停止になる。豪州第2の都市での大規模ロックダウンが今後の経済へ与える影響は大きく、RBAの見解が注目されている。また、先月は為替介入には否定的な発言をしたが、RBAが介入について発言すること自体がまれなこともあり、市場関係者の一部は驚きを示した。今回も為替や為替介入について言及する可能性もあり、豪ドルは声明発表が終わるまで予断が許さないことになりそうだ。

## 【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

## &lt;国内&gt;

- 08:30 ◎ 7月東京都都区部消費者物価指数（CPI、生鮮食料品除く総合予想：前年比 0.1%）
- 08:50 ◇ 7月マネタリーベース

## &lt;海外&gt;

- 10:30 ◇ 6月豪貿易収支（予想：88億豪ドルの黒字）
- 10:30 ◎ 6月豪小売売上高（予想：前月比 2.4%）
- 13:30 ☆ 豪準備銀行（RBA）政策金利発表（予想：0.25%で据え置き）
- 14:45 ◇ 7月スイス SECO 消費者信頼感指数（予想：▲23.5）
- 15:45 ◇ 6月仏財政収支
- 16:00 ◇ 7月トルコ製造業 PMI
- 16:00 ◎ 7月トルコ消費者物価指数（CPI、予想：前月比 0.90%／前年比 12.10%）
- 18:00 ◎ 6月ユーロ圏卸売物価指数（PPI、予想：前月比 0.5%／前年比▲3.9%）
- 23:00 ◎ 6月米製造業新規受注（予想：前月比 5.0%）

## 5日

- 07:45 ◎ 4-6月期ニュージーランド（NZ）失業率／就業者数増減
- 10:45 ◎ 7月 Caixin 中国サービス部門 PMI

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

3日 07:30 カシウカリ米ミネアポリス連銀総裁

「4-6週の経済封鎖を提案する」

「ウイルスが制御できている限り、経済は力強く回復できる」

「経済封鎖を行わず、ウイルスの猛威が米国中に再燃した場合は、地域のロックダウンは来年もその翌年も続くだろう。そしてより多くの倒産が起こるだろう」

「議会はコロナウイルス救援活動に多額の支出ができる立場にある」

3日 14:43 豪ビクトリア州・アンドリュース首相

「今後数日間のうちに新たな規制を発表する」

「この6週間は非常に重要な期間になる」

「再び彼が人々に仕事に行かないように頼むことになるとは思っていなかった」

「スーパーマーケット、食料品店、ガソリンスタンド、銀行、郵便局などは営業継続」

「水曜深夜から休業開始、これらの規制はメルボルンに適用」

3日 21:14 スラック英首相報道官

「英国と日本との通商協議は進展している」

3日 22:11 カプラン米ダラス連銀総裁

「フォワードガイダンスをインフレだけではなく、2つの使命と結べつけることを望む」

「新型コロナウイルス対応が上手くいかないと年末の失業率は9-10%を予測」

「量的金融緩和のリスク資産への影響を認識し、懸念することが賢明」

「これから1年間の原油相場の戻しは難しい」

3日 22:55 トランプ米大統領

「ナスダックは史上最高値」

「寝ぼけたジョー（ジョー・バイデン）が大統領に就任すれば仕事や株、401kすべてがダウンする」

「中国や他の人間が我々を所有する」

4日 02:12

「9月15日がTikTok買収の最終期限であり、もし買収が成立しなければTikTokを禁止する」

「マイクロソフトがTikTokを買収しても構わない」

4日 02:18 ブラード米セントルイス連銀総裁

「7月の減速は回復まで景気が上下することを示している」

「4月が景気後退の底のようだ」

「新型コロナウイルスの影響は予想よりも長引いている」

「インフレ期待を2%に集中させることが重要」

「米経済成長は第3四半期に急速な成長を迎える」

「今後数年は低金利が維持されると予想されるため、フォワードガイダンスが大きな影響を与えるとは考えていない」

4日 02:27 パーキン米リッチモンド連銀総裁

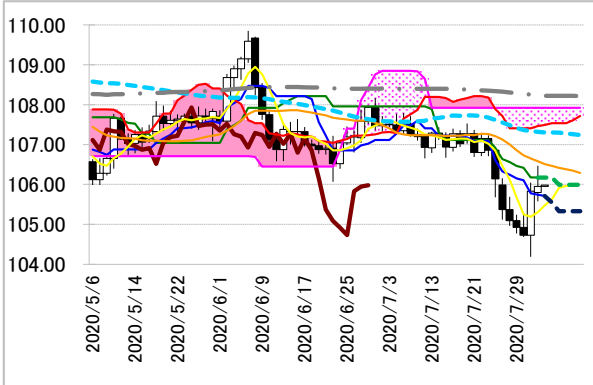
「新型コロナウイルスの復活は米経済回復の勢いを弱める」

「今後の不透明感が高い」

「財政支援を止めることは米経済への大きな痛手となる」

※時間は日本時間

## 〔日足一目均衡表分析〕

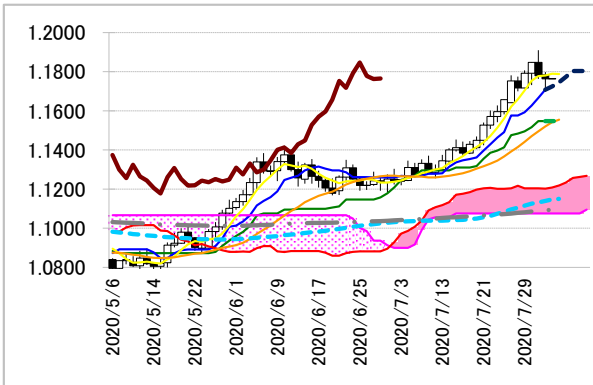


### <ドル円＝転換線同様に、基準線を順次こなす流れ期待>

上影小陽線引け。一目均衡表・転換線の抵抗をこなしたものの、一目・基準線 106.18 円を上回る水準では伸び悩み、106 円割れへ押し戻されて NY を引けている。

低下中の基準線を一気にこなすことはできなかった。しかし、転換線も目前でいったん伸び悩みつつも上回った。同様に基準線も段階的にではあるが克服する展開が想定できる。ただ、やや上に低下中の 21 日移動平均線も抵抗として控えており、容易に上伸できる状態ともいえない。

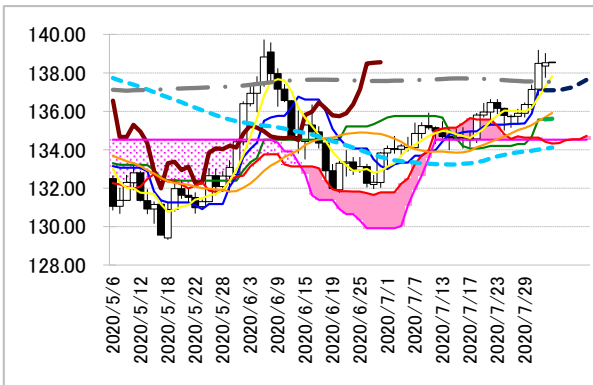
レジスタンス 1	106.51 (21 日移動平均線)
前日終値	105.95
サポート 1	105.58 (8/3 安値)
サポート 2	105.06 (7/31-8/3 上昇幅の 61.8%押し)



### <ユーロドル＝昨日安値付近が下げ止まりのポイントか>

下影小陰線引け。本日 1.1725 ドル前後に上昇した一目均衡表・転換線付近の攻防となっている。切り上がった同線を割り込む場面もあるかもしれない。しかし、転換線付近で下げ渋り下ひげを形成して底堅さを示した昨日安値付近が下げ止まりのポイントとになり続けることが期待できる。

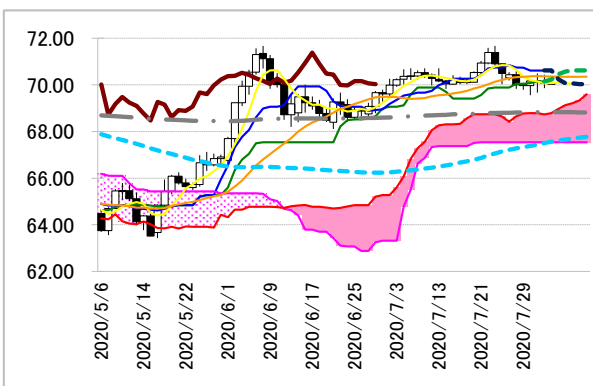
レジスタンス 1	1.1828 (7/31-8/3 下落幅の 61.8%戻し)
前日終値	1.1762
サポート 1	1.1696 (8/3 安値)



### <ポンド円＝転換線やがて上昇再開、高値圏を維持へ>

下影小陽線引け。6 月初旬以来の 138 円台で伸び悩み、気迷い気味の小さな足型を形成した。ただ、長めな下ひげは底堅さを示唆。目先のすう勢を示す短期・5 日移動平均線も割り込んでいない。強弱を判断する上で重要な節目 200 日線が 137.53 円前後でまだ低下傾向である点は気掛かりだが、現在横ばいの一目均衡表・転換線は 6 日にも上昇を再開する見込み。大きな相場の崩れは回避し、高値圏を維持するとみる。

レジスタンス 1	139.20 (7/31 高値)
前日終値	138.53
サポート 1	137.82 (5 日移動平均線)



### <NZドル円＝雲の切り上がりサポートとなり、深押し回避>

極小陰線引け。一目均衡表・転換線と基準線の交差する局面に差し掛かったところで、下放れの傾向を強めつつある。転換線は現状からすれば、70.61 円の横ばいから明日には 70.24 円へ低下する見込み。同線に動きを抑えられ、下値を探ることになるか。だが、一目・雲の上限が上昇中。サポートとなる水準の切り上がり、深押し回避につながるだろう。

レジスタンス 1	70.61 (日足一目均衡表・転換線)
前日終値	70.07
サポート 1	69.55 (7/30 安値)

